

研究課題名	手指基節骨骨折におけるプレート固定に対する 早期自他動運動の有用性
実施責任者	所属・職名：名古屋掖済会病院・リハビリテーション部
	氏名：加藤雅大
研究の概要	<p>最近, 手指の基節骨骨折ではプレートによる固定が多くなっています. プレート固定は強く固定できますが, 関節の動きが制限されるといった合併症も心配されています. そのため, 術後のリハビリが必要となりますが, その詳細は明らかになっていません. そこで今回, 該当する患者様のデータを調査して術後早期からリハビリを行うことの有用性について検討します.</p>
対象となる個人情報	<p>対象患者様における手指のレントゲン・性別・年齢・手指の動き・握力・各リハビリの開始時期および内容を調査します.</p>
実施の期間	西暦 2012年 1月 1日より
	西暦 2019年 9月 30日まで
研究対象	<p>当院にて2012年1月1日~2019年9月30日の間に手指基節骨骨折と診断され, プレートによる固定する手術を行った方で, 術後1週間以内にリハビリを開始した方を対象とします.</p>